

周防大島中学校 研修通信

vol.9

1/7 (水) 学力熟議開催

1月7日(水)に、生徒会執行部、委員長、教員、学校運営協議会のみなさんと学力熟議を行いました。今回は、「学力向上に向けて、どのようなことに取り組んだらよいだろうか」というテーマで、課題と具体的な対応策について考えました。さまざまな視点からアイデアが出てきて、協議時間の30分間があっという間に過ぎました。

生徒たちは、学習に集中できていない原因として、スマホの長時間使用や、それに伴う睡眠不足があると考えていることがわかりました。先日私が見たテレビ番組では、日本人のスマホを含む1日のスクリーンタイムは世界で46位だと伝えていました。日本は、世界的に見るとスクリーンタイムが短い国といえます。(高齢化が原因という意見もありますが…)。子どもについても、アメリカの子どもと比べると、日本は中学生の平均が4時間42分であるのに対し、アメリカは7時間22分(13～18才)となっています。一見、日本のほうがましなように見えますが、アメリカでは授業も含めた昼間に使用することが多く、「就寝前の1時間はデバイスを置く」「食卓では使わない」など、使用する時間帯を管理する文化があるそうです。一方、日本では学校から帰ってからの夜間の使用時間が多く、ルールを初めは設定するものの、すぐに形骸化する傾向にあるそうです。これだけスマホが浸透している世の中において、スマホを子どもに与えないことは難しいと思うので、せめてアメリカのような昼型の使用に移行していく必要があるのではないかと思います。

以下に、熟議で出た現在の課題と具体的な対応策を、できるだけ掲載してみました。なかなか面白い対応策も出ており、すぐにでも実行できそうなものも多くあります。来年度に向けて、それぞれの立場で実現できそうなものはないか、考えてみましょう。

課題(左)と具体的な対応策(右)

- ①家庭学習の充実
- ②スマホの使用時間
- ③読書の時間
- ④勉強の仕方がわからない
- ⑤文章力
- ⑥基礎学力
- ⑦コミュニケーション能力
- ⑧学習意欲がわかない
- ⑨提出物(宿題)がでない
- ⑩自己分析・表現力が弱い
- ⑪授業に集中できない

- ①家庭学習サポーターの配置、何のために行うのかを明確にする。キャッチフレーズ化(生徒会で作成)
- ②家庭でのルール決め、生徒総会でのルール決め、生活習慣の見直し(睡眠)、メディアコントロールの取組
- ③読書マラソン、読書帳の作成
- ④学習の方法を身に付けさせる、振り返り、レコーディング、週ごと、月ごとなど学習スケジュールを作成する。
- ⑤日頃から書く習慣をつける(日記などで)、グループでプレゼンを企画
- ⑥授業の質の向上、小テスト、検定の活用、タブレットの活用、アウトプットの機会が少ない。放課後学習の実施、スモールステップ、地域に集まって勉強ができる場所をつくる。習熟度別授業を実施する
- ⑦大島以外の外部のことについて知る機会をつくる
- ⑧学ぶことの意義、夢や目標の設定、様々な体験や大人が語る場面を増やす
- ⑨ポイント制にしてみる⑪姿勢をよくするための取組を学校で行う。